

カジメ磯焼け調査報告

2017年9月に黒潮大蛇行が発生し、3年以上が経過しました。黒潮大蛇行は伊豆半島の磯根漁業に影響を与えますが、その一つにカジメの磯焼けがあります。磯焼けとは、海藻群落が広範囲で急速に枯れてしまう現象で、カジメの磯焼けが起こると、餌を失ったアワビが餓死し、漁獲量が大きく減少します。

伊豆分場では、黒潮大蛇行が発生して以降、カジメ磯焼け調査を実施しています。また、その他の潜水調査時にもカジメ群落の様子を確認しています。2017年以降のカジメ磯焼けの状況については、分場だより第353号¹⁾、361号²⁾でも報告しています。ここでは、直近の調査で把握したカジメ磯焼けの状況について報告します。

【谷津】河津町谷津地区では、毎年3月にテングサ作柄調査のための潜水を行っており、カジメ群落の様子も確認しています。写真1は、2019年まではカジメが多数着生していた地点の様子です。2020年には、カジメの幼体が僅かに確認できる程度となっていました。今年には多数の幼体が確認されました。

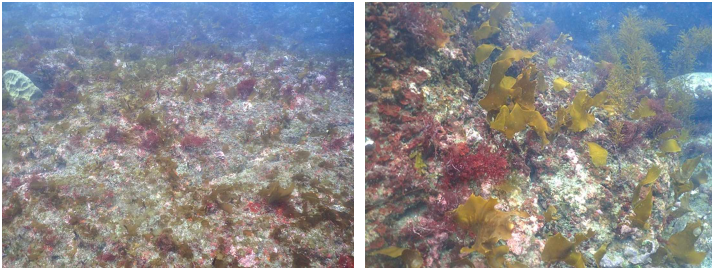


写真1 谷津地区（ハツロウ）

（左：2020年3月13日 右：2021年3月12日）

【白浜】下田市白浜地区では、広くカジメの着生が確認されており、魚類による食痕や季節的な葉部の凋落はあるものの、磯焼けの兆候はありませんでした（写真2）。近年は、各地でカジメの磯焼けが発生しており、成熟期にあたる秋季に白浜（砥川浦）に打ち上げられるカジメは母藻投入用のカジメとして、伊東地区などでも利用されています。白浜地区のカジメは、地区内のアワビ等の餌としてだけでなく、磯焼け状況にある伊豆半島各地区にとっても貴重な資源です。今後も、カジメ群落の状況を注視する必要があります。



写真2 白浜地区（高根）2021年2月9日

【外浦】下田市外浦地区の新增殖場（図1）では、カジメ群落を確認できました。ただし、同じ増殖場内でも、沖側のカジメは殆どの葉部が消失して茎だけになっており（写真2）、また幼体も少ない状況でした。岡寄りのカジメは、新しい葉が生長していましたが（写真2）、今後の動向には注意が必要です。

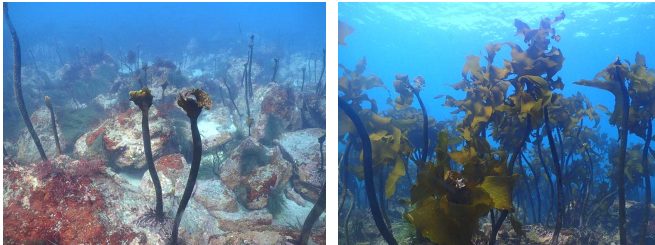


写真3 外浦地区（新增殖場 左：沖側 右：岡側）

【須崎】下田市須崎地区では、2020年3月に一部の地点において、カジメの葉部の消失を確認しており、2020年夏季には広域的なカジメの葉部消失、また痩せアワビの出現が漁業者から報告されています。

2021年2月、3月に、地区内の潜水漁業者からの聞き取った情報を基に、最後までカジメが残存していたという地点を中心に、潜水調査を実施しました（図1）。各地点の状況は以下の通りでした（写真4）。

御用邸前、九十浜：カジメ確認できず。オオバノコギリモクが繁茂。

田ノ浦：カジメ確認できず。ホンダワラ類も魚類による食害で茎のみ。テングサが繁茂。

中間：葉部が消失し枯れたカジメの茎のみ残存。ホンダワラ類も魚類による食害で茎のみ。テングサが繁茂。

いずれの地点でも、生き残ったカジメを確認することができませんでした。一方で、カジメが消失した“中間”や“田ノ浦”ではテングサ漁場が拡大しており、テングサについては生産量の増加が期待できます。



図1 外浦～須崎の調査地点

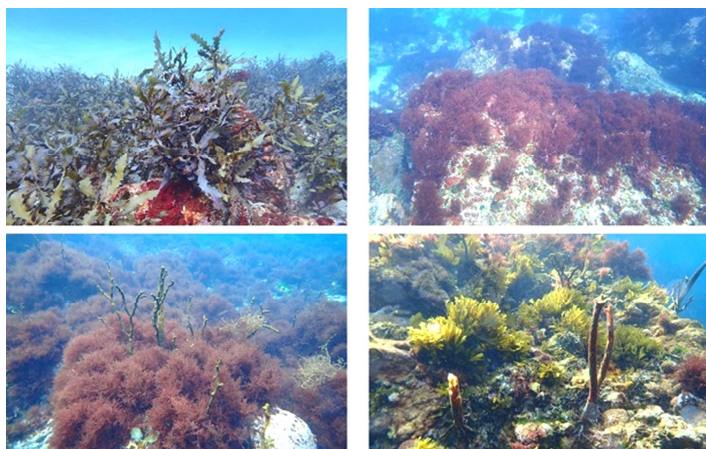


写真4 須崎地区

(左上：九十浜 2012年2月19日 右上：田ノ浦 2021年2月19日
下：中間 2021年3月11日)

一度カジメが消失した漁場では、周辺からの胞子の供給を期待できない為、母藻投入が必要となります。また、現在、外浦～白浜はカジメが残存していますが、磯焼け域が拡大する可能性もあります。当场では、今後も各地区の磯焼け対策活動を支援するとともに、カジメ群落の状況をモニタリングしていきます。

- 1) 長谷川雅俊(2018)：12年振りの黒潮大蛇行と磯焼け，伊豆分場だより第353号，2～4.
- 2) 鈴木聡志，長谷川雅俊(2020)：カジメ磯焼け状況，伊豆分場だより第361号，14～16.

(鈴木聡志)